

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400130		
法人名	社会福祉法人宝樹		
事業所名	グループホームニコニコット		
所在地	千葉県市原市有秋台東2-4-10		
自己評価作成日	平成29年11月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成29年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームニコニコットは、「思いやりの理念」に基づき、入居者との触れ合いを通じて生きる喜びを共有できるよう支援している。また、入居者様が生き生きと生活を送れるよう地域行事への参加や障害者・児童との世代間交流を行い、地域住民との関わりや散歩、外出活動等を行っている。食事においては、食品の安全管理に力を入れ、安心して食事ができるようにしている。洗濯、調理、後片付け、掃除等を職員と共同で行い、各入居者が持っている力を活用できるよう支援している。医療面においては、訪問看護ステーションと24時間体制にて連携し、必要時主治医の往診にて入居者と健康管理を実施している。食品の安全管理、食の楽しみの提供に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームニコニコット」は静かな住宅地の中にある。施設はユニットが1階・2階と分かれ、エレベーターも設置されており、入居者の身体機能に配慮した環境が整備されている。前年度に引き続いて地域住民との交流機会を増やしており、施設行事への招待・ボランティアの受け入れ・地域の夏祭りや敬老会への訪問等、地域に根差した施設運営を目指している。定期的に「ニコニコ通信」を発行しており、施設の日常生活の様子や行事の報告及び案内等の情報を掲載し、家族に送付すると共に、運営推進会議時に資料として配布しており、家族との信頼関係構築や施設の理解促進に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの心」という理念のもと、入居者が安心して地域で生活できるよう支援している。正面玄関入口や事務所、休憩室に理念を掲示し、職員全員が共有し実践している。	「高齢者に対する感謝と尊敬の念を持ち、入居者とスタッフのふれあいを通じて生きる喜びを共有する住まいを築きます。」という施設理念を掲げ、玄関や事業所内に掲示し、職員への理解浸透及び外部の人達への周知を図っている。また、入職時の研修にも取り上げており、理念に基づくサービスの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民と散歩等の外出時に挨拶を交わしたり、地域のお祭りや保健福祉センター、外食等に出かけ地域との関係性を築いている。その他、同法人の障害者支援施設及び保育園と交流している。	地域住民とは挨拶や声掛けを交わす関係を築いていると共に、地域行事の参加・ボランティアの受け入れ等を通じて交流を深めている。また、母体施設の障害者施設や保育園との交流も定期的に行っており、世代間交流の機会確保や入居者の生活活性化に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、施設運営の状況を報告し、地域住民の認知症に対する理解を普及できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催。地域包括支援センター職員、民生委員、地域の代表者、入居者、家族、職員が出席し、状況報告、活動報告、意見交換をしてサービス向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催しており、地域包括支援センター職員・民生委員・地域ネットワーク会長・家族・法人幹部等が出席している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行っており、施設理解促進及びサービスの質の向上に繋げている。他にも、写真映像を活用しながら日常生活の報告やサービスの取り組み状況を分かり易く伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録提出、成年後見制度利用、低所得者の生活等日頃のサービスの相談において市町村と連携し、適切な支援を行っている。	日頃から市に対して、業務全般における相談・連絡・報告等をうと共に、運営会議の開催時に施設運営や現場の現状を伝える等、市町村との協力関係構築に取り組んでいる。他にも、地域介護事業所の会議に参加しており、市や他の介護事業所との意見・情報交換を行う機会を設けている。	

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策のため、玄関の施錠をしているが、本人の希望に応じて外出機会を作っている。職員間では会議やサービス担当者会議を開催し、身体拘束は必要最小限としている。	高齢者虐待防止における内部研修を実施し、職員へ意義の周知・共有に取り組んでいる。また、身体拘束排除については申し送り時や会議等で取り上げ、適切な支援方法の検討を行っている。困難事例においては、会議等にて検討を行い、家族の理解が得られるように努め、その人らしい自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修、会議、申し送りにおいて、入居者や家族、サービスの状況を確認し、虐待をしない支援の実践に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が受講した研修資料を職員が閲覧できるようにして共通認識を図っている。また、入居者の状況に応じて、都度、市の職員に相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って内容について利用者及び家族に十分説明して、疑問等について納得できるよう説明を重ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時やケアプラン更新時、日常の利用者との生活、家族面会時、電話にて意向を確認している。また、運営推進会議において、入居者及び家族が地域の外部者に意見を表出できるようにしている。	家族の訪問時・電話連絡時・運営推進会議等を活用して、意見や要望を確認している。挙げた意見や要望においては会議や申し送り等で周知・検討の上、適切な改善に努めている。定期的に「ニコニコ通信」を発行し、日々の様子や施設活動等を報告しており、家族との信頼関係の構築や施設の透明性確保及び施設の理解促進に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、日々の申し送り、サービス担当者会議にて職員と意見交換をし、サービスの質の向上に努めている。職員の個別相談にも応じて安心して仕事ができる環境づくりに取り組んでいる。	定期的に会議を開催すると共に、個人面談も行っており、職員の意見・提案等を確認する機会を設けている。日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け、職員個々の思いの把握に努めている。内部・外部研修への参加の機会も設けており、適切な人材育成にも取り組んでいる。	職員アンケートにより、全職員が入居者のレベル低下と人員不足を現状課題として挙げている。今後は、施設の現状を見据えた上で、職員参画の下、業務の効率化や改善について継続的に検討すると共に、入居者の生活継続の支えとなる職員の疲労・ストレス・不安等の要因に配慮した環境整備に取り組んでいく事が望まれる。

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者及び職員の意見を毎月及び適宜代表者に報告して働きやすい環境作りに努めている。各職員の状況を鑑みて労働時間や日数を調整したり、業績に応じて昇給など待遇面を見直している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の向上を図り、定期的に内部研修を実施したり、申し送りやサービス担当者会議、職員会議にて利用者の状態に応じたケアができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設や同業者との情報交換、ネットワーク形成を行って職員のスキルアップに繋がられるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や入所後随時、日常生活状況や意向を確認し、サービスに反映できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接や面会、電話、施設サービス計画更新時に、意向を確認して安心できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常の観察や意見交換、申し送り、サービス担当者会議にて本人の生活状況を把握して各入居者に適切な支援を提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者の能力に応じて家事等の活動を共同で行っている。また、入居者の意向や趣味に応じた支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人との関係性維持のために、家族に意向確認、本人の生活状況や施設サービス計画の内容を説明したり、運営推進会議への参加、面会の勧め、議事録配布を行っている。		

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人に馴染みのある公共施設、お店等への外出支援をしている。また馴染みのある人物や持ち物等との繋がりを維持できるよう支援している。	希望に応じて、友人や知人等の来訪を随時受け付けると共に、家族との外出・外泊も自由となっており、馴染みの関係継続を支援している。また、少人数や個別の外出も行っており、習慣や趣味等に配慮した馴染みの場所での楽しみも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者が持っている力を発揮し、日々の生活において役割を分担し共同生活ができるように支援している。また、テーブル席の位置を考慮し、入居者同士が楽しく過ごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者が他施設に入所となったことを確認し、その後の支援は行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し送り、サービス担当者会議等において職員間で各利用者の思い、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。日常の様子を観察し、対話、生活歴、家族、他事業所から情報収集をしている。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、必要に応じて、医療機関・他事業所から情報提供を受ける等、より詳細な情報の把握に努めている。また、会議や申し送り等を活用し、意見・情報交換を行い、本人・家族の意向に沿った支援の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス担当者会議、職員会議、申し送り等にて各利用者の生活歴、馴染みの暮らし方、本人の意向に沿った暮らしの支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前は、本人、家族、他事業所等から情報収集し、入所後は日常の観察や対話、申し送り、職員会議、サービス担当者会議において、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員、利用者及び家族との関わりから、本人や家族の意向、生活状況を把握し、サービス担当者会議における意見交換にて状態を把握し、それに即した介護計画を作成している。	本人・家族の意向を基に、介護計画の作成を行っている。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。入居者の身体状況や残存能力の把握に努め、現状に即した介護計画の作成を心掛けている。	

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の状況を介護記録に記入、また職員会議議事録にて、職員間で情報共有を図っている。介護計画の更新においても、個人記録、議事録を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を聞き取り、訪問理美容の利用支援や地域イベント参加等の外出支援、郵便局、銀行、地元支所等地域の社会資源の利用、病院受診の同行をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で収集した情報を基に地域のイベント、外食等外出を支援している。また、同法人の障害者支援施設の夏祭りやクリスマス会、保育園との世代間交流等行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて訪問看護ステーションの主治医と連携して医療が受けられるように支援している。また、本人と家族の希望、本人の状態に応じて他科受診の支援をしている。	希望の医療機関への受診及び必要に応じて内科医・歯科医による往診を実施しており、適切な医療受診を支援している。また、訪問看護師による健康管理・服薬管理も行う等、日頃から医療面における情報連携を図っている。定期的に訪問マッサージを実施しており、身体機能の維持・向上に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康観察、申し送り、職員会議、サービス担当者会議から利用者の状態を把握し訪問看護ステーションに連絡、相談し、看護師の意見に基づき受診や薬の使用等適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、病院スタッフに情報提供し、その後の経過を把握しつつ情報収集する等連携して、状態把握を図る。また、退院後の生活に備えて担当者会議や生活環境の整備等の支援を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期支援は体制が整わず実施できていない。本人が重度化した際、本人や家族の意向を確認し、サービス担当者会議や全体会議にて支援の方向性を定めている。他施設利用、入院を希望した場合、希望に合わせて移行できるよう支援している。	重度化・終末期における施設方針を明文化すると共に、契約時に家族に説明し、延命希望同意書も交わしている。重度化した場合や終末期においては、医師・看護師・職員が協議を行い、家族の意向に沿った支援方法の検討並びに方針の統一を図っている。	

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に、職員にマニュアルを配布したり、申し送りや職員会議にて、急変や緊急時の対応に備えている。事業所内にも連絡体制マニュアルを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。災害時の備品については、法人施設から支援を受けられる体制になっている。また、井戸水の利用ができるため、災害時の生活用水を確保できている。	スプリンクラー・自動通報器・火災報知器等の消防設備を設置していると共に、定期的に消防避難訓練及び設備点検を実施している。訓練では消防署立会いのもと消火器訓練や通報訓練等を行い、避難方法を確認している。また、井戸水の利用が可能となり、非常災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りや会議で、事業所の理念にある「利用者への感謝と尊敬の念」を職員間での共有を図り、各利用者を尊重した言葉かけにて丁寧に対応している。また、利用者の自尊心やプライバシーにも配慮している。	個人情報保護及びプライバシー保護に関するマニュアルの整備や法人研修を実施し、職員への周知徹底を図っている。日頃から職員に対しては「高齢者の尊厳」について触れる機会を設けており、理念を意識したケアの実施に向け取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会議や申し送り等で全職員が認知症を理解し、利用者の意向を共有できるようにして、利用者が意向を表出できる関係をつくれるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶、間食の時間は決まっているが、その他の時間は個々の利用者のペースに合わせ支援している。職員が身体清潔等の支援をする際も、本人の意向を確認し、利用者本位のサービスに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者や家族の希望に応じて服装については季節を考慮し職員が協力して行っている。訪問理美容の利用支援を行っている。		

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食事を楽しめるよう希望や能力に応じて、職員と協働し食事の準備や片付けをしている。利用者の希望を確認しつつ、外食の支援や行事食を提供している。	希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまでを入居者と職員が共同で行っている。献立の作成及び食材の配送を業者に委託しており、身体状況や栄養バランスに配慮した食事が提供されている。また、定期的に外食・特別食・手作りおやつを実施する等、食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量、体重の推移を把握し、また、訪問看護の助言を基に本人の状態に合わせ栄養、水分摂取に努めている。食事・水分提供の際は、利用者の好みや習慣を考慮し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が個々の利用者の口腔ケア動作能力を把握し、本人の状態に合わせて介助している。口腔内の異変があった場合は、協力医療機関の歯科医に相談し往診をして頂き、助言を基に援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し本人の排泄パターンや表情、しぐさ等を把握してトイレで排泄できるよう支援している。また、本人の状態に合わせて自力では困難なことを介助しつつ自立に向けて支援している。	排泄チェックリストを活用し、個々の排泄状況及びパターンを把握しており、トイレ誘導・声掛けにて排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間においてはトイレ誘導を行う等、入居者一人ひとりの状況に応じた適切な対応に努めている。必要に応じて、医師・看護師に相談しながら適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録にて各利用者の排便状況を把握し便秘に対して散歩や運動、ヨーグルト摂取等をしている。また、訪問看護と連携し、状態観察を依頼したり、主治医の指示に合わせて下剤を服用する等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日を予定。都度本人に希望の時間帯を確認し実施している。入浴は本人の希望や状態に合わせて身体清潔を支援している。	入居者の体調や希望に応じて日時の変更を行う等、柔軟に対応しながら入浴機会の確保に努めている。また、必要に応じて清拭・シャワー浴・部分浴を行い、入居者の清潔保持にも取り組んでいる。	

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の希望や生活習慣に合わせた寝具で就寝できるようにしている。日中は活動をしたり無理のないよう休息できるようにし、不安のため入眠できない場合は職員が対話や医療連携にて服薬して安眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者のお薬情報を全職員が確認できるようにして把握している。また、各利用者の処方箋に合わせて服薬支援をしている。健康状態に変化が生じた時には訪問看護と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望や生活歴を把握し、楽しみある生活を送れるよう雑草取り、料理、食後の後片付け、洗濯物干し、洗濯物畳み、散歩、歌、踊り、創作活動等を行いつている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常において本人の希望を確認し、散歩や買いもの、外食、イベント会場への外出、敬老会など地域や同法人の障害支援施設の行事に参加できるよう支援している。家族の協力を得てお墓参りや親族との面会にでかけられるようにしている。	散歩・買物・ドライブ等、日頃から積極的に外出する機会を設けている。定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。また、同法人の障害者施設や保育園との交流を積極的に行い、外部の人達との交流機会の充実化に取り組んでいる。今年度は天候や重度化に向けた支援の取り組みとして、ミニスポーツ大会を開催する等、室内レクの充実化も図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望に応じ、利用者本人が自由に使えるお金を事業者内で保管し、利用者の消費活動の支援をしている。買物の際は、職員や家族が同行し必要な支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族の希望に応じて電話の利用を支援している。また、外部からの電話の取りづぎもしている。手紙を出すことを希望した場合は、切手やはがきの購入、書字の支援を行う。		

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて創作活動を実施し装飾して、季節感を取り入れている。共用の空間については、毎日清掃している。トイレは車いす対応型であり人感センサーも設置。アイランドキッチン使用にて発火予防に努めている。避難経路や非常設備も確保している。	共有スペースには椅子・テーブルを設置し、自由にくつろげる環境を整備する共に、写真・作品・季節飾りを掲示する等、明るく楽しい雰囲気作りに努めている。また、施設内はバリアフリー設計で、エレベーターが設置されており、入居者の安全や身体機能に配慮された環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	階段の踊り場に椅子を設置したり、屋外の敷地内にベンチを置いている。また、ソファを設置し、一人もしくは気の合う利用者同士で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、居心地良く過ごせるよう従来使い慣れた物や好みの物、創作活動の作品を置いている。快適に過ごせるようエアコンや窓の開閉による空調管理をしている。	入居時に本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できるよう配慮している。また、和・洋室仕様の選択もでき、希望に応じてテレビ等も使用可能となっており、生活歴に配慮した居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーになっており、手すり、エレベーターを設置、屋内の扉を開閉しやすいよう工夫している。居室入口になじみの物や作品を展示する等して、安心かつ安全、能力を発揮して生活できる環境づくりをしている。		